春祭り きらびやか

神前で舞を披露する女子児童＝29日、小浜市谷田部の若宮八幡神社

浦安の舞 厳か奉納

小浜・谷田部 児童 衣装まとい

小浜市谷田部の若宮八幡神社で29日、春の例祭が営まれ、女子児童による「浦安の舞」が奉納された。児童4人が色鮮やかな衣装を身にまとい、神前で伝統の舞を厳かに舞った。

浦安の舞は1940年に皇紀2600年記念事業として、全国の神社で一斉に奉納されたもの。若宮八幡神社では一時中断していたが、1979年に復活した。

浦安は「心の安らか」を意味するとされ、平和を祈る舞と伝えられている。2部に分かれ前半はヒノキの扇を手に、後半は鈴を持って舞う。児童は3月中旬から練習を積んできた。

神前の舞台に、朱色のはかまや羽織を身に着けた「舞姫」の児童が登場。雅楽に合わせ7人の児童が歌う中、ゆったりとした雰囲気で舞を披露した。

舞姫の1人、浦谷桜空さん（口名田小6年）は「2回目なので落ち着いて舞えた。昔から伝わる舞を披露できてうれしい」と話していた。

（佐々木哲也）

見頃を迎えたハナモモの花＝28日、大野市西勝原

西勝原　天覆うハナモモ 圧巻

山の残雪も解け始め、大野市内の各地は色鮮やかな春の花で彩られている。西勝原の勝原花桃公園ではハナモモの花が満開。乾側地区では田んぼのあぜ道に植えられたシバザクラが見頃を迎えている。

ハナモモの名所として知られる同公園には、1本の木から2色の花を咲かす品種「源平桃」が植えられている。白やピンク色の愛らしい花が、青空や周囲の山に映える。花が頭上で咲き乱れる〝ハナモモトンネル〟も出現し、訪れた人々は通り抜けを楽しんでいる。チューリップや菜の花も植えられており、まさに花尽くしの様相。

多くの人でにぎわった28日は、スイスから来日したパトリック・シマイスキーさん(58)の姿もあった。「ビューティフル。これだけのハナモモが咲きそろう公園を訪れるのは初めて」と興奮気味に語った。福井市から訪れた60代夫婦は「圧巻の風景で、どこで写真を撮っても絵はがきみたい」と話していた。

ハナモモは、和泉地区でも植えられており、西勝原から、下山、朝日、下半原へと見頃が続く。

一方、乾側地区では田

水田を鮮やかに彩るシバザクラ＝

泥だらけで 田んぼ満喫

鯖江・片上で催し

みんなで……読もう

鯖江市片上地区の第30回かたかみ春たんぼ（福井新聞社後援）が29日、同市片上公民館周辺と文殊山で開かれた。多くの家族連れらが訪れ、恒例の田んぼで楽しむソフトバレーやソリ引き競争、ステージなど多彩な催しを楽しんだ。

「どろんこソフトバレー」では、地元の主婦や小学生らが4人1組で12チーム出場。田んぼに足を取られ、全身泥まみれになりながらもチーム一丸となってゲームを楽しんだ。参加者はレシーブやアタックを決めると、「やった」と歓声を上げ、笑顔を見せていた。

特設ステージでは30回を記念し、芸人の長州小力さんが登場。一緒にパラパラを踊り盛り上がった。

春たんぼのイベントを題材としたフォトコンテスト（福井新聞社後援）も始まり、5月20日まで作品を募っている。詳細は春たんぼの公式ホームページに掲載されている。

（前田皐）

泥だらけになりながらソフトバレーを楽しむ参加者＝29日、鯖江市大野町

則武さんしのび 30人献花、詩朗読

坂井で「葱忌」

坂井市ゆかりの詩人、則武三雄さんをしのぶ「葱忌」が29日、同市三国町安島の荒磯遊歩道にある則武さんの詩碑前で営まれた。献花や詩の朗読を行い、故人の功績に思いをはせた。

則武さんは鳥取県で生まれ、三好達治に招かれ三国に移り住んだ。90年に81歳で亡くなり、翌年に詩碑が建てられ、毎年